

平成22年度事業評価シート(ハード事業)

1 事業名等(Plan 1)

事業名	流雪溝整備事業											
所属名	基盤整備部 維持課 維持グループ											
第七次総合計画	政策	3	「すみよさ」のあるまちをめざして	分野	8	防災	基本施策	1	災害に強いまちをつくる	施策	1	雪害の防止
予算科目	7	2	5	除雪対策費	費	72500	除雪対策事業	事業				
					費			事業				
					費			事業				
根拠条例・実施要綱・担当部門計画等	消融雪側溝整備5か年計画											
事業の実施主体	○ 市 市以外→											
事業の実施方法	直営 指定管理 業務委託 団体等補助 ○ その他→ 工事請負											

2 事業の目的・概要(Plan 2)

目的は対象(何を、誰を対象に)と意図(対象をどういう状態にしたいのか)を、概要は実施手法、手順等を記入

目的	誰のために(対象)	該当する道路を利用する沿線地域住民、観光客及び車両等	受益者数	人
概要	対象をどういう状態にしたいのか(意図)	冬季における「雪またじ」の負担を軽減し、住民主動による道路の除雪体制を構築することで「すみよさ」のあるまちをめざす。		
	事業の実施手法、手順	既設側溝を消融雪側溝に入れ替え、舗装復旧工事を行う。		
	事業始期・終期	始期: 18年度から 25年度まで 設定なし		
今年度の改善・改革ポイント	前年度の評価結果、指示事項等を踏まえ記入 ・流雪溝の機能を発揮させるため、上流からの流水やポンプによる地下水を効率的に活用する。 ・側溝深の変更や止水板設置により流入水量を一定とするなど、側溝機能を十分に発揮させる施工を行う。			

3 事業費の推移・結果(Do)

【コスト面】

区分	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
総合計画計画額(当初)	40,000	40,000	39,000	40,000	40,000
総合計画計画額(計画額)	40,000	40,000	39,000	40,000	40,000
事業費	予算額	45,050	45,170		
	決算・見込	17,115	27,866		
財源	国庫支出金	18,016	18,068		
	決算・見込	6,846	0		
地方債	予算額				
	決算・見込				
受益者負担	予算額				
	決算・見込				
繰入	予算額				
	決算・見込				
一般財源	予算額	27,034	27,102	39,000	
	決算・見込	10,269	27,866		
H17国勢調査 96,231人 32,174世帯 ※コスト→行政活動の単位当たり経費算出、変動を経年比較により、効率性評価					
コスト指標	受益者負担率(受益者負担/事業費) 単位 %	-	-		
	市民1人当たりコスト(事業費/H17人口) 単位 円/人	178	290		
	1世帯当たりコスト(事業費/H17世帯) 単位 円/世帯	532	866		
	受益者1人当たりコスト(事業費/指標) 単位 円/人				
↓ その他(空欄にコスト指標名記入、事業費をベースとして単位当たりコストを算出)					
	単位 円/人				
	単位 円/人				

【成果面】

活動・成果指標	指標名	資料・出展算出式							単位	方向
		平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度		
活動指標	消雪溝整備延長			365	580	390	320		m	→
	目標値	-	-	365	580	390	320			
	実績値	218	334							
成果指標	消雪溝整備延長(累計)			365	945	1,335	1,655	1,665	m	→
	目標値	-	-	365	945	1,335	1,655	1,665		
	実績値	218	334							
	達成率	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		

3 事業費の推移・結果(Do)

前年度までの実績(累計)	対象・手段	5か年計画に定めた地域(路線)を対象に消融雪側溝を布設する。
	事業費	H17~H21年度 85,580千円 (内容) 工事費 85,580千円 その他 千円
	受益者負担	0千円 (内容) 千円
	本年度	39,000千円 (内容) 消融雪側溝 L=364m 39,000千円 その他 千円

【成果面】

項目	評価内容(算定式)			進捗率
	整備見込	整備目標	単位	
本年度	365	365	m	100.00
本年度までの累計	365	1,655	m	22.1
事業の進捗率の考え方	39,000	199,000	千円	19.6
進捗結果・理由	全体計画における当該年度までの施工済み事業費、延長の累計の割合 5か年計画に基づき、順調に進捗している。			
	○ 計画どおり □ 未達成 該当項目に「○」表示			

4 分析・評価(Check)

①事業の目的評価(事業の目的・概要に対する妥当性から事業の必要性を評価)

(現状及び判定理由) 融雪側溝に改良することで、除雪の労力軽減と沿線住民の相互協力による「雪またじ」の実践を図り、冬期間の安全な生活を確保している。

判定: A:非常に高い, B:高い, C:低い, D:非常に低い → **A**

②コスト面評価(事業の推移、コスト指標の結果からコスト面を評価)

該当項目「1」入力(注:平成20年度から平成22年度第一四半期までの推移から判断)

減少 維持 **1** 増加

(判定理由) 流雪溝は雨水排水も兼用しているため、水路断面積の大きい変更はできない。また、基本的工種であるためコスト縮減は難しい。

③成果面評価(活動指標・成果指標から成果面を評価)

該当項目「1」入力(注:平成20年度から平成22年度第一四半期までの推移から判断)

拡大 **1** 維持 減少

(判定理由) 整備の進捗に伴い、住民除雪の可能な範囲が拡大した。

目的評価

目的評価「A・B」かつコスト・成果「第1水準」 → I 「良い」 良好な水準を維持

目的評価「A・B」かつコスト・成果「第2水準」 → II 「やや良い」 「I」の水準に向けた改善が必要

目的評価「A・B」かつコスト・成果「第3水準」 → III 「普通」 「II」の水準に向けた改善が必要

目的評価「A・B」かつコスト・成果「第4水準」 → IV 「やや良くない」 「III」の水準に向けた改善が必要

目的評価「C・D」もしくはコスト・成果「第5水準」 → V 「良くない」 「IV」の水準に向けた改善もしくは事業の休止、廃止などの検討が必要

③成果面

項目	②コスト面		
	増加	維持	減少
拡大		○	
維持			
減少			

コスト・成果ポジション

B

第2水準

一次評価 主管課

評価区分

III

判断の理由及び課題問題点
・流雪溝設置により除雪の労力軽減と沿線住民の相互協力による「雪またじ」の実践が図られている。
・流雪溝への流水と安定した水量の確保が課題である。

5 今後の方向性(Action)

評価結果に対する改善提案 (下記チェック)	計画どおり 実施 <input checked="" type="checkbox"/> 改善・継続 終期設定 休止 廃止 完了
活動の方針	<ul style="list-style-type: none"> 少量の水でも投入した雪は溶けて流下し、効果があることが確認できた。 高齢者等を含めた地域住民に有効に利用されている。 <p>次年度実施方針</p> <ul style="list-style-type: none"> 5か年整備計画に基づき事業を実施する。 他事業で整備された水路にスクリーンを設置することで流雪機能を持たせコスト縮減を図る。

総合評価		
コスト	成果	評価区分
高	高	III
「II」以上の水準に向けた改善が必要		
流雪溝が本来の機能を発揮するためには、流水の確保が必要であり、良好な景観の形成も含めて、まちなかの側溝への効果的な流水について検討する必要がある。		